

委員会行政視察研修報告

行政視察研修

■実施日 平成23年10月24日～10月26日

視察地 青森県三沢市 三沢空港

視察地 宮城県仙台市・多賀城市

報告者 尾元 武

3 常任委員会が合同企画で実施した行政視察研修が10月24日から26日まで行われた。今回の研修は、平成24年度開港予定の岩国錦帯橋空港と同じ、全国的にも数少ない軍民共用空港である三沢空港を視察した。本空港は青森県の太平洋岸東南部にある三沢市のほぼ中央に位置し青森県東部の玄関口となる空港である。

基地の滑走路を民間航空機が利用するため、通常は仕切られている電動ゲートが離着陸の際のみ開くというセキュリティの高いシステムを視察し、翌日は航空自衛隊（三沢基地）内研修室に於いて日本の北部方面の治安を自衛隊とアメリカ空軍が協調関係を保ちながら進めていることや、地元三沢市との友好的な連携などの現状説明を受けた。岩国錦帯橋空港開港後の本町の対応等に役立てていきたいと考える。



米軍・自衛隊・民間共用の三沢空港

翌日、昨年の3月11日未曾有の大被害をもたらした東日本大震災、その津波の被害を受けた多賀城市や仙台市などの被災現場を視察した。

震災から7ヶ月以上経過した現地は、主要道路の残骸などは片付けられていたものの、空き地に高く積み上げられた廃車や建築廃材が山のように点在していた。又、1階部分のシャッターがめくれて壊れたままの大きな倉庫、曲がったままの信号機や電柱など、当時の惨状が多数残っており、この復旧には相当な年月と莫大な経費が必要であろうと感じたのは、私だけではなかったらと思う。

自然災害の脅威を目の当たりにし、2万人に及ぶ亡くなられた方・行方不明の方々のご冥福をお祈りするとともに、現地の一日も早い復興をお祈りし、私たち一人ひとりが何らかの形で復旧のお手伝いをする事ができるのではないかと、災害に対する防災や減災についても、自主防災組織の在り方をはじめ今までとは違った取り組みが必要と痛感した。

今回の研修には15名の議員が参加。日程的に強行軍のところもあったが、大変意義深く終えることができた。



積み上がるガレキ